PART3　なりの識別（応用編）

（応用編）

★ラ変型に付く「なり」

（例）あるなり

★ラ変型「**撥音便**」に付く「なり」

（例）あ［なり］→［　　　］

※下枠参照

（　　）［なり］→「　　　」

様子
～か［なり］

※

（例）①～③の中で仲間外れは？

① 渡らせ給ふべかなり。

② いふもおろかなり。

③ いと罪重かなり。

※ **な**［なり］
な［めり］

★**四段動詞**に付く「なり」

音声動詞＋［なり］→［　　　］

（例）言ふ　泣く　鳴く　打つ　叩く　など

「ばかり**なり**」
「～ば**なり**」
★「かく**なり**」
「さ**なり**」
「しか**なり**」
の「**なり**」＝「　　　」

★「**なり**けり」の「**なり**」＝「　　　」

第12講　PART3　確認問題

① 傍線部の「なる」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

「世の中に物語といふもののあんなるを、いかで見ばやと思ひつつ、…」

ア　ラ行四段活用動詞　イ　形容動詞の活用語尾　ウ　断定の助動詞
エ　推量の助動詞　オ　伝聞の助動詞　カ　推定の助動詞

② 「この御子のゐたまふべきなめりと、…」の傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　打消　イ　伝聞　ウ　推定　エ　断定　オ　完了

③ 「さては、扇のにはあらで、くらげのな[a]なり[b]。」の文法的説明の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　a　ラ行四段活用動詞「なる」の連用形　b　推定の助動詞「なり」の終止形
イ　a　伝聞の助動詞「なり」の連体形の撥音便　b　断定の助動詞「なり」の終止形
ウ　a　断定の助動詞「なり」の連体形の撥音便　b　推定の助動詞「なり」の終止形
エ　a　ラ行四段活用動詞「なる」の連用形　b　断定の助動詞「なり」の終止形

④　傍線部が文法的に異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　武蔵の国と下（しも）つ総（ふさ）の国との中に、いと大きなる河あり。

イ　嘴（はし）と脚と赤き、鴫（しぎ）の大きさなる、水のうへに遊びつつ、…

ウ　京には見えぬ鳥なれば、皆人見知らず。

エ　それをかく鬼とはいふなりけり。

⑤　傍線部「に」の文法的説明の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

物思ひすがたにて出で[a]にけり。
三四日[b]になりぬる昼つ方、…
なぞの犬のかく久しう鳴く[c]にかあらむ、…

ア　a　ナリ活用形容動詞の連用形活用語尾　b　副詞の一部　c　推定の助動詞「なり」の連用形

イ　a　完了の助動詞「ぬ」の連用形　b　格助詞　c　断定の助動詞「なり」の連用形

ウ　a　推定の助動詞「なり」の連用形　b　断定の助動詞「なり」の連用形　c　副詞の一部

エ　a　ナリ活用形容動詞の連用形活用語尾　b　格助詞　c　断定の助動詞「なり」の連用形

オ　a　完了の助動詞「ぬ」の連用形　b　推定の助動詞「なり」の連用形　c　副詞の一部

第12講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 「なる」の上の「あん」はラ行変格活用「あり」の連体形が音便化（撥音便）したもの。よってラ変型活用語の場合は連体形に接続する伝聞の助動詞「なり」となる。

② 断定の助動詞「なり」の連体形「なるなり」の撥音便「なんなり」（「ん」の無表記）。当然の助動詞「べし」の連体形に接続している。よって、エが正解。

③ 「ななり」は断定の助動詞「なり」の連体形と伝聞推定の助動詞「なり」からなる「なるなり」の撥音便「なんなり」（「ん」の無表記）。よって、ウが正解。

④ アは形容動詞「大きなり」の活用語尾。イ・ウは体言に接続、エは断定の助動詞「なり」と助動詞「けり」の連語の「なりけり」。よって、アが正解。

⑤ ａは活用語の連用形に接続する完了の助動詞「ぬ」の連用形。ｂは体言・活用語の連体形に接続する格助詞「に」。ｃは体言・活用語の連体形に接続する断定の助動詞「なり」の連用形。補助動詞「あり」「はべり」などが下にくることが多い。よって、イが正解。

〔解答〕

① オ　② エ　③ ウ　④ ア　⑤ イ